

## ○水替とは?

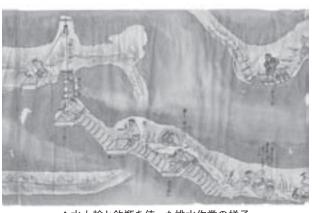
佐 渡 മ

金 銀 Ш 史 を

シ彩る人

マ

が水没し、 ります。湧水を放置しておくと坑道内 による湧水への対策が最大の課題とな 山では地下水や地面にしみこんだ雨水 坑道が深く掘られるにしたがって、 めて地中深く坑道が掘られています。 金銀山。こうした鉱山では、 400キロメートルともいわれる相川 これまでに掘られた坑道の総延長 金銀の採掘ができなくなる 鉱脈を求 鉱



▲水上輪と釣瓶を使った排水作業の様子

工物 釣瓶や桶を使った汲み上げでした。細とも原始的な方法が手繰り水替という とができます。 描かれており、 ンカスホイ」が使用されました。 ポンプであるオランダ水突道具「フラ 2年(1782)には天秤式の手押し と呼ばれたアルキメデス・ポンプの原 ストンポンプ、承応2年(1653) るスポイトの原理を応用した木製のピ 年間から使われた「寸法樋」と呼ばれ した。排水のための技術のなかで、もっ や設備による排水作業が行われたほ 要な仕事の一つでした。 金の抑制のために、 員の確保が難しく、 昼夜交替制の重労働であったため作業 行う町人や各集落に割り当てられて手 の坑内の様子を描いた絵図や絵巻にも での排水作業の様子は、鉱山絵巻など けられた細長い筒がありました。天明 理を応用した内部にらせん状の羽が付 に導入されたといわれる「水上輪」 か、人力による作業が併用されていま 坑道や樋引などによる大掛かりな坑道 水道に代表される水貫と呼ばれた排水 伝いに出た農家の人々がいました。 (器具)を使った排水では、 生事の一つでした。時には南沢疎常に排水をすることは坑内の重 作業には水替を専門に その様子をうかがうこ 作業員の確保・賃 のちに無宿人と呼 坑内 慶長



▲佐渡金山第二駐車場にある水替小屋跡

たことがありました。 ばれた人々も水替作業に従事させられ

## ○江戸水替の人々

れられて佐渡に「島送り」とされ、 まれました。無宿人たちは唐丸籠に入 ました。 い場合には佐渡に居住することが許され 帰国するか、出身地に身元引受人がいな 数年間働くと、 たので江戸水替と総称されていました。 ような人々は特に江戸の無宿人が多かっ して水替え作業に従事しました。この 水替小屋に収容され、 川金銀山敷地内の間ノ山に建てられた 長崎で拘禁されて相川金銀山に送り込 る戸籍を持たない人々が、 大都市の治安維持のため無宿人と呼ばれ 石谷清昌の発案で、 安永7年(1778) 「平人」として出身地な 江戸をはじめとする 一昼夜交替で入坑 から佐渡奉行 江戸·大坂·

## ○江戸無宿の墓

男生で、これでいます。
一名も刻まれています。
を供養に充てた旧江戸火消し差配人與を供養に充てた旧江戸火消し差配人與 歩で起きた坑内火災により亡くなった無永6年(1853)7月17日、青盤間前・出身地・没年が刻まれています。 嘉 宿人を供養するもので、 の文字、 塔を見ると、正面に と呼ばれています。 替無宿の3基の供養塔で、江戸無宿の墓タネス゚ロ゚ロタータ 相川次助町の覚性寺跡にある江戸 左右に14名ずつ28名の戒名・名 中央かまぼこ形の石 「南無妙法蓮華経\_ 彼らの名前の他

えません。 宿人の供養祭が行われており献花が絶 現在でも毎年4月の第3日曜日に無



▲相川次助町の江戸無宿の墓

◆教育委員会 世界遺産・文化振興課 27 -4170